

食育に関する市民意識調査

調査概要

- 調査対象 鹿児島市民3,500人(無作為抽出)
- 調査期間 平成23年7月8日～7月28日
- 調査方法 郵送法
- 回収率 51.6%
- 調査内容 食育に関する意識や関心、地産地消、家庭における食育の実践、食文化や郷土料理、食品の安心・安全等について

食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることとあります。(食育基本法前文)

家庭、地域、学校や食に関わる関係機関・団体等が連携して、食育の推進に取り組み、一人ひとりが健康で生き生きと生活できる鹿児島市をめざしましょう。

今回は調査項目の中から主なものを掲載します。

調査へのご協力、ありがとうございました。

食育の関心度は高い

「食育」への関心度は高い傾向にあり、食育の推進に向けた活動がさらに広がっていくことが予想されます。関心がある理由として「食生活の乱れが問題になっているから」「こどもの心身の健全な発育の為に必要だから」「生活習慣病の増加が問題になっているから」「自然の恩恵や食に対する感謝の念が薄れているから」などが上位にあがっています。食育に対する意識や考え方は様々となっています。

8割の人が朝食をとっているが、20歳代の朝食欠食が多い

男女共に、朝食をほとんどとらない20歳代の割合が約3割と高くなっています。食べない理由としては「食欲がわからない」「時間がない」「以前から食べる習慣がない」があげられています。

自由意見

関心を持っていても、なかなか実践の機会が少ないので農業体験等に挑戦してみたい。

食育は、こどもだけでなく、大人にも大切なことだと思う。健全な食生活をして健康を維持していきたい。

鹿児島は良品の食材が多いので、生産者・生産場所が分かる物を買う場所が増えればいいと思う。

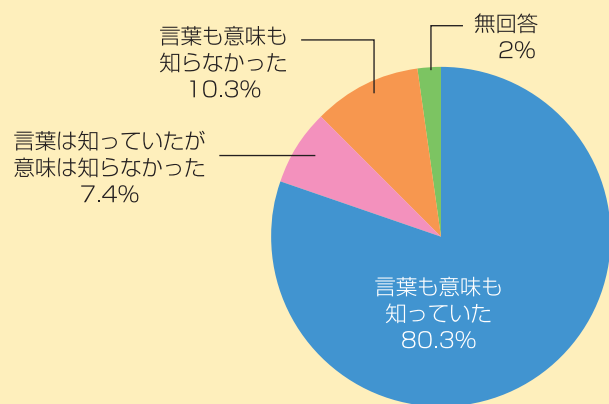
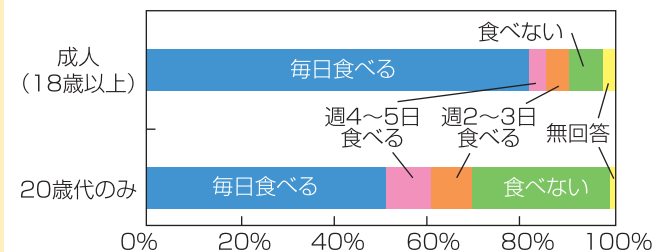
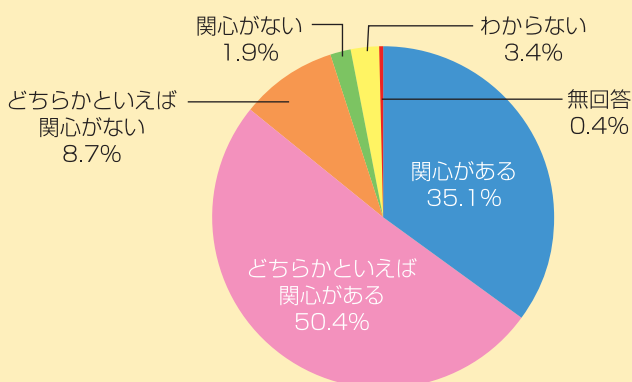
昔ながらの家庭で作る保存食(味噌や梅干しなど)や郷土料理を作り続けていきたい。

各家庭での食育(親からの教育)がとても大切だと思う。

季節にあった野菜を家庭菜園で作り、子ども達と一緒に育てて食べている。近くに農園があればいい。

表示を確かめることなく、自然のままに美味しくいただけるようになれば一番だと思う。提供する側の安全性の確立が前提。

食べられることのありがたさをもっと多くの人が知っていたほうが良い。感謝の気持ちを持って。



地産地消の周知度

【地域でとれたものをその地域で消費する】という意味の地産地消の認知度は8割を超えています。地場産(鹿児島県産)に対しては、「安心・安全」を7割、「新鮮さ」を2割の人が期待しています。